

生きものの名前

人は生きものの種類を識別し、それぞれに名前をつけることで違いの意識を共有することができます。名前の付け方に法則性はなく、同じ生きものでも人々との関わり方や地域によって名前が異なることがあります。普段聞きなれたものから、想像することさえできないようなものまで生きものの名前は様々です。

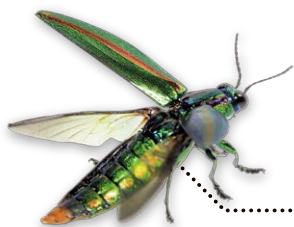
本展示では生きものの名前に焦点を当て、その意味や名づけの由来について紹介します。

名前を通じて多様な生きものの世界をのぞいてみましょう。

1 「和名」—日本語の名前

日本語で付けられた名前を和名と呼びます。和名は、生きものの色や形、鳴き声などの生態に由来するものが多く見られます。

その他にも、別の生きものに例えた名前や、地域によって呼び方が変わる名前など、命名の仕方は多種多様です。



タマムシ(ヤマトタマムシ)

「玉」(=宝石)のように美しいためタマムシ(玉虫)と付いた。他のタマムシの仲間と区別が付くように頭に「ヤマト」とつけることもある。

ブッポウソウ

「ブッポウソウ(仏法僧)」と鳴くとされ、この名前が付いた。後に、この鳴き声はコノハズクというフクロウの仲間のものであることがわかったが、名前はそのまま使われている。



2 「学名」—世界共通の名前

学名とは、世界共通で用いられる名前です。言語の異なる地域間でも同じ生きものを示すことができるため、学術的な場面で使われます。

ラテン語が用いられ、「二名法」*で表されます。また、他の単語と区別できるように斜体で記述します。



例えばセイヨウミツバチの学名は

アピス メリフェラ
Apis mellifera
(属名) (種小名)

です。

属名の*Apis*はラテン語でミツバチという意味です。種小名の*mellifera*は「ハチミツ」を意味する*melli-*と「運ぶ」を意味する*ferre*を語源としています。

*学名は、その生物が属するグループの「属名」と、その種を示す「種小名」の2つを組み合わせて表します。

3 埼玉県の地名が入った名前

生きものの中には、地名を含んだ名前を持つものも数多く見られます。それらはたいいてい、その生きものが最初に発見された場所にちなんでつけられています。

埼玉県でも市町村名をはじめとした地名を冠するものが、植物や昆虫、化石など幅広い分類群に見られます。これはひとえに埼玉県という地域が、多くの発見の舞台となってきたことを物語っています。



トダセスジゲンゴロウ



チチブコルリクワガタ



チチブヒシバク



チチブギセル



チチブサルボウ



フコウマメザクラ



トダスゲ

埼玉県立自然の博物館

〒369-1305

埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1

TEL:0494-66-0404



〔開館時間〕9:00~16:30

※入館は16:00まで

〔休館日〕月曜日(祝日、振替休日、ゴールデンウィークは開館)

〔観覧料〕一般200円 大学生・高校生100円

中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその付添者1名は無料

*ご来館の際は、マスクの着用等感染防止対策にご協力ください。

*混雑時に入館制限を行う場合があります。

*新型コロナウイルスの状況により、

会期の変更等がある場合があります。

最新情報は博物館ホームページ

(<https://shizen.spec.ed.jp/>)で

ご確認ください。

